



「羽衣伝説の中の察度」

古くは浦添間切謝名村、今は宜野湾市真志喜の森川公園内には、察度王の誕生についての物語「羽衣伝説」の舞台となる森の川と呼ばれる湧泉があります。

察度王は、首里王府編さんの『中山世鑑』（1650年）や『球陽』などの史料によると、謝名村の奥間大親と天女の間生まれたとされています。この中で描かれる羽衣伝説は、宜野湾市の最も著名な民話で、豊かな内容で伝えられており、天女とその夫との間に生まれた子が偉人になるという点は、滋賀県の『近江国風土記』に掲載された日本最古の「天女女房」の内容と共通している上、天女の昇天の後に地上での話が展開されています。

要約すると、奥間大親と天女との間に生まれた察度は勝連の姫と結婚し、さらに黄金で人々を助け、百姓には黄金で得た鉄で農具を作り与えました。人望を集めた察度は浦添按司となり、そして中山王となります。中山王となった察度は、1372年にいち早く中国の明と朝貢貿易の道を開く

ことに成功し、浦添の全盛期を築くとともに、首里・那覇を政治経済の中心とした新たな時代の土台を築いて数々の業績を残しました。

羽衣伝説は、県内では数カ所に伝わっており、本島では那覇市銘苅（安謝）や西原町我謝、南風原町宮城に伝えられています。さらに離島も含めると天女が羽衣をつけ、昇天するまでの話は、奄美から八重山諸島まで分布しています。いずれも豊かな人間模様と別離の悲しさなどが盛り込まれており、その地域の話者によって今日まで伝承された貴重なものです。

さて、国を繁栄に導く英雄の出現は、昔から人々の願望であり、希望でもあります。察度は英雄と呼ぶにふさわしく、その成就と歓喜を語る宜野湾市の羽衣伝説は、ロマンを求める人々の心を掴んで離しません。

【問い合わせ】

市立博物館 ☎870-9317



▲羽衣伝説が伝わる森の川（県指定名勝）2021年6月



市民講座で察度について学んでみませんか？

今年度も始まって早3カ月、コロナウイルスの猛威はいまだ収まる様子がなく、感染予防に苦心する日々が続いておりますが、皆さまはいかがお過ごしでしょうか。さて、今年2021年は中国と公式に交易をはじめ、琉球国の基礎を築いた中山王察度（1321年〜1395年）の生誕700年を記念して、博物館では関連イベントを計画しています。その中で、博物館主催の「市民講座」では、室内と野外の2つの講座を行います。

まず、9月12日（日）に、「伝承で解き明かす察度王の真実」と題した講演会を行います。講師は、琉球歴史伝承研究所代表の、伊敷賢先生です。伊敷先生は「琉球王国の真実―琉球三山戦国時代の謎を解く―」（2016年）などの著者で、琉球伝承に関する講演活動などを行っております。察度は、多大な功績を残したにもかかわらず、彼に関する歴史史料はごくわずかです。伊敷先生の講座は、察度にまつわる伝説や伝承に着目し、それらの内容を様々な史料の



市立博物館のイメージキャラクター 天女ちゃん

補足として考察することで、察度の人物像に迫る興味深い内容となっております。次に9月26日（日）には、「はごろも伝説・察度の足跡を辿る〜首里・那覇〜」と題した野外講座を行います。案内を行う宜野湾市文化財ガイド「察度の会」は、2007（平成19）年に設立し、本市の文化財を中心に案内を行っている市民団体です。本講座では那覇・首里を中心に、伊敷先生の講座に沿った文化財を見学することで、室内講座の理解を深めます。

これらの講座は、「ふるさとの偉人」である察度を知る入門編として、また察度をより詳しく知るための足掛かりとして、察度に興味を持つ人々にお勧めの講座です。皆さまのご参加をお待ちしています。

【問い合わせ】

市立博物館 ☎870-9317



▲伊敷先生と察度の会のみなさんが行った文化財めぐり（崎山御嶽）の様子



宜野湾市立博物館 市民講座 ホームページはこちらから